令和6年度　江戸川区立二之江小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	人権尊重の精神をもとに、心身ともに健康で豊かな心をもち、自ら学び、考え、行動し、主体的に自己実現を図ることができる児童の育成を目指し、次の目標を設定する。「考える子」（重点目標）「助け合う子」「元気な子」	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・子供の笑顔があふれる楽しい学校、教職員が育てることの喜びに満ちた学校、保護者、地域から信頼され愛される学校 ・基礎的・基本的な学力が定着している児童、周囲の人たちと共に生きる心をもつ児童、体力を向上させ、健康管理のできる資質や能力がある児童 ・児童の可能性を引き出し教育に対する情熱を持ち続ける教師、自己を見つめ、常に向上心を持ち続ける教師、組織の一員として、様々な立場の人の思いや願いを受け止め、共に学び続ける教師
前年度までの本校の現状	成果	＜成果＞ ・新校舎への移転を円滑かつ計画的に行うことができた。教育活動も混乱なく再開することができた。 ・感染症拡大防止が終結に向かう中で実施した運動会、音楽会という学校行事を通じて、児童が自分のよさや友達のよさを認め、「できた」という喜びを実感できる学校風土を築くことができた。	課題 ＜課題＞ ・各学力調査、東京ベーシックドリルの解答結果により、既習事項の定着が十分ではないことが明らかになった。授業での反復学習や放課後補習教室の活用に課題が残った。 ・運動遊びや体育の授業を通じて児童の体力を向上させるまでには至らなかった。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○「誰一人取り残さないための学力向上ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」の推進と学習規律の徹底 ○特に算数科における基礎・基本の確実な習得	・「誰一人取り残さないための学力向上ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」の取組への成果と課題を明らかにして、改善案を提案	・学力向上委員会の会議を月１回設定 ・学習規律ｱﾝｹｰﾄを児童、教員に対して年２回実施	B		B	○学力向上委員会の会議は月１回実施した。 ○学習規律ｱﾝｹｰﾄは今後実施する。児童は規律を守り、授業に参加しようとしている。	B	○児童の学力向上について、今後の学校の取組に期待している。 ○学力とともにコミュニケーション能力の向上も図ってほしい。					
		・東京ベーシックドリル診断テストや４，５年生の区学力定着度調査の結果を分析し、既習事項が児童に定着しているかを計測	・東京ﾍﾞｰｼｯｸﾄﾞﾘﾙ診断テスト７割達成者６０％以上	B		B	○区学力定着度調査の初回の結果は、４年生が目標としていた平均正答率70%を上回った。 ●東京ﾍﾞｰｼｯｸﾄﾞﾘﾙ診断ﾃｽﾄで、7割達成者60%以上という目標達成をした学年はあるが、達成していない学年が多い状況である。	B	○小学校は基礎を固める大切な６年間ととらえている。児童一人一人の学びを大切に、丁寧に学習を進めていってほしい。					
	○読書科の更なる充実 ・読書を通じた探究的な学習の充実 ・読書科の取組を地域、保護者へ発信	・各学年での図書を使用した探究的な学習への取組 ・学校ホームページへの読書科で取り組んだ成果物の掲載	・各学年学期に１回、図書を使用した探究的な学習を実施 ・学期に１回、学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞに読書科で取り組んだ成果物を掲載	B		B	○１学期に図書を使用した探究的な学習を実施した学年が多くあった。 ●１学期、学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞに読書科で取り組んだ成果物を掲載することはできなかった。	B	○学校図書館の環境はよい。選書や図書館利用について充実を図ってほしい。					
体力の向上	○体を動かす楽しさの体得	・自然と体が動き、「運動するのは楽しい」と児童が実感できるような運動遊びの実践	・区小教研体育部から講師を招聘し、児童が主体的に取り組む運動遊びを学び、実践	B		B	○体育館での運動遊びを各学級に定期的に割り当て、雨天でも運動できる環境を設けた。 ○区小教研体育部から講師を招聘し、各教員が児童が主体的に取り組む運動遊びを学び、実践した。	B	○校庭が完成し、児童が戸外で体を思い切り動かせるようになった。これを機に運動を楽しんでほしい。 ○水泳指導の回数が少なかった。今後のプール利用について検討してほしい。					
	○体育科の授業力向上	・体育科の実技研修や授業づくりを学ぶ機会を設定	・年２回「江戸川区 授業の達人」や校内の体育科を専門とする教員を講師とし、体育科の授業力を向上	B		B	○１学期に「江戸川区 授業の達人」を講師として招聘し、体つくり運動の実技研修会を実施した。 ○２学期に体育を専門とする本校教員が、ICT機器を活用する体育の研究授業を行った。	B	○児童の体力が向上するよう、教員も体育の授業を工夫してほしい。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施	・学級、専科経営や授業での指導の手立てにユニバーサルデザインの視点を採用	・学期１回の管理職による授業観察で、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を実施しているか確認	B		B	○２学期の管理職による授業観察で「授業のユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた指導を実施しているかを確認した。管理職からは児童理解を深め、個に応じた指導のさらなる実施を助言、指導した。	B	○特別に支援が必要な児童の情報を教職員間で共有し、指導に役立てている。					
	○特別支援学級との交流及び共同学習の実施、充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	B		B	○1学期に3年児童とﾚｸﾘｴｰｼｮﾝを行った。2学期は特別支援学級3年児童と3年児童が共同学習を行い、交流を深める授業を実践する。	B	○特別支援学級の児童は、教職員や多くの人たちの支援や指導を受け、落ち着いて過ごしている。					

不登校・いじめ対応の充実	○hyper-QUの活用	・よりよい学級をつくるためにhyper-QUの結果を分析	・年に1回校内でQU研修会を実施 ・hyper-QUの結果における「学級生活満足群」の数値が前年度から向上	B		B	○QU研修会を実施し、教員一人一人が本校のQUの結果と分析すべてに目を通した。	B	○いじめや不登校に悩む児童がいなくなるよう、より児童理解に励んでほしい。					
	○教育相談の強化	・関係諸機関と良好な関係を築き、学校の課題について相談できる体制の構築	・登校渋りや不登校児童とのＳＣ、ＳＳW連携率を100%	B		B	○登校渋りや不登校傾向の児童について、ＳＣ、ＳＳWと連携して対応した。	B	○様々な立場の大人と児童がつながり、よりよい学校生活を送ることができるよう対応している。					
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○学校ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・毎日更新	A		A	○各学年の担任、栄養士、校長を中心として学校ホームページを更新し、子供たちの学校での様子が視覚的に分かるよう配慮した。	B	○引き続きホームページの充実を望む。					
	○学校関係者評価の充実	・保護者、地域へのアンケート調査の実施 ・学校公開や学校行事で児童の学習、生活の様子を実際に参観	・アンケート調査は年度末に1回実施、学校公開や学校行事は都度参観	B		B	○学校公開に来校され、児童の学習や生活の様子を直接ご覧いただいた。	A	○学校公開日に行う行事を参観したり、児童と直接触れ合い、学校での生活を知ることができた。 ○土曜授業の際、親子で楽しむことができるカリキュラムを設けるとよい。					
特色ある教育の展開	○ライフワークバランスの実現に向けた職場環境の整備	・定時退庁日の設定。 ・副校長補佐やSSS（スクールサポートスタッフ）を効率的に活用、教職員の業務軽減。	・月１回定時退庁日「二之江ﾌﾟﾚﾐｱﾑﾃﾞｰ」を設定 ・副校長と一般教員の月当たり時間外労働時間を前年度から削減	B		B	○月1回の定時退庁日「二之江ﾌﾟﾚﾐｱﾑﾃﾞｰ」には9割の教職員が定時に勤務を終え、退出した。 ○副校長と一般教員の月当たり時間外労働時間は前年度から減少傾向であるが、時間外労働時間が減少しない教員もいる。	B	○児童が元気に学んだり遊んだりできるよう、教職員も気を付けて健康を維持してほしい。					